

# 日本ソーシャルスキル協会 東北支援サークル活動報告



vol.7 増刊号

2012年6月30日発行

## 1年3ヶ月経った…今の石巻

◆高さ10mの2階建て / 公民館上のバス

モニュメントとして残す案もあったが「見るたびに津波を思い出す」と撤去。(2012年3月10日雄勝町)



◆仮設きぼうのかね商店街

女川高校グラウンドで2012年4月29日より営業開始。JR女川駅前にあったからくり時計の鐘が津波で流されたが1つだけ音のなる状態で見つかったことから、この商店街のシンボルとして設置した。再起を誓い、木造の仮設商店の方々は新しい一歩を踏み出した。



◆石巻・松並町 ←まだそのままの状態



◆女川寿司 おかせいさん



お店の前は瓦礫が残されたままですが、復興し開店。女川の海岸近辺はなんにもない異様な光景。



◆大川小学校



◆門脇小学校

3階建ての建物の屋上部分まで真っ黒に焦げたまま。



「わたしは大きくなったらこのことを忘れないで自分の子どもに教えたいと思います。わたしの将来の家族の記憶にするために…」(4年生女子)(「3月11日を生きて～石巻・門脇小・人びと・ことば～」より)

◆「がんばろう!石巻」



被災地・宮城県石巻市の荒れ果てた地に立つ「がんばろう!石巻」の看板。

その看板の後ろは、殺風景な風景です。

「気持ちが落ち込みそうになった時は自分が作った看板を見て再び奮起します」(黒澤健一さん)



石巻中里出張所の皆さんも、「復興するまで私たちは絶対に諦めない。皆のため、そして自分のため」と頑張る。「必ず立ち直るからね」と踏ん張っています。

(猪俣)

